



39・2・15

発行所 世田谷区世田谷二丁目10番
伊藤先生方 四二一・〇六六九
日本脳性マヒ者協会
社会福祉事業団体
育い芝の会 部
編集広報部
印刷所 三誠社 三二一・九四〇九

全體の中の一員

高 山 久 子

夢を実現化さるには、私達が現在の自分と取り組み、その中から一步一歩計画性をもたせて育てていってこそ、眞の理想と呼ばれ、空想で終らせるものない希望と成るものだと思ひます。

会の理想は皆さん御承知の通りわれ

れ全体の幸福にあります。それでは全体のために如何に動いたら、より良き希望

と成り、又、その成果が得られるか。

よく皆さんは会のために動けないか

り悪い、反対に、会が何もしてくれない。

会の部分的、直接的な面にのみ、こだわ

り過ぎて居るようになります。

二月からは東京地区的プロック化や社

会活動方面も雪どけと共に動きだす模様

です。大きな全体の動きの中での一員で

ある事をも改めて皆で認めあってゆきま

しょう。

心良い新春を迎えた事と
御慶び申上げます

皆様より数多くのお年賀状とお電話を
戴き、誠に、有難う御座りました。紙上で
申訳ないのですが、年頭の御祝詞と御
札を申述べます。本年も宜しく御願い致
します。

云い古された言葉ですが、一年の計は
元旦にあり、とか、あつ皆さんには今年
の夢と希望をそれぞれお持ちになつた
事と想ひます。兎角、人は現実から離
れた處に夢を持ち、それを希望としがちで
す。夢を単に頭の中だけで思ひえがき、
現実から逃避した処で考へてゐるだけな
ら、それは多くの場合「空想」というだ
けに止まってしまいます。

“聖女ジヤンヌ・ダーグ”観劇会決算報告書

昭和39年1月30日
会計 高山 久子

総収入 義 705,500 総支出 義 382,156
純利益 義 323,344

収入明細		
切符売上 A券	700×390	義 273,000
(未収)	×10	7,000
a	650×49	31,850
B	550×419	230,450
(未収)	×3	1,650
b	500×8	4,000
c	350×46	16,100
(未収)	×5	1,750
		計 565,800

支出明細		
森永製菓株式会社	義 50,000	観劇契約金 義 331,100
伊勢丹	30,000	P R 版印刷費 28,000
日本水産株式会社	10,000	交通費 162,000
鎌倉ハム株式会社(未収)	10,000	通信費 1,020
青い芝 親の会	10,000	通信費 5,836
婦人の友社	5,000	雑費
日本冷蔵株式会社	5,000	
三笠会館	3,000	
劇団「雲」	2,700	
小田急百貨店	2,000	
八重洲技研	2,000	
	計 139,700	

◇ 今回の入場券は全部指定席であったが
プロック(A席・B席・C席)を作つてその中の自由定員制とした方が、席を探したり又開幕後のサワメキもなくスマスに坐れるのではないかと思う。尚終了予定時間もプログラム又は案内状に書き添えてほしいという希望もあった。
冬将軍のダルマさんを思わせる。すごくなつかしく親しみを覚える可愛らしさ。
(E)

◇ 劇団「雲」の事務局員Y氏、今年は暖冬異変で東京ではお目にかゝれなかつた。冬将軍のダルマさんを思ふ。満員の都電を待つて空車を横目にしライランワントンそこで時計を持たなかつたとか?...
(F)

新劇公演を終えて
新劇公演運営委員長 石橋玲二
一九六三年、暑さ寒さも何とやら、九月も二十日になると涼風が吹き始めていた。だが青い芝の小さな金庫の中は涼風どころか破傷にさえかゝりかねない状態だ。善意銀行にたのみ放しのチャリティショウが少しも進展していかつたからだ。こうして焦り気味の事務局に予期しない朗報が舞い込んで来た。

厚生年金会館のY氏の紹介で劇団「雲」の興行の一日買切りがそれであつた。膨大な契約金を払わばならない不安よりも前年の厚生年金会館におけるチヤリティションを外部の人達が高く評価してくれたと云う喜びの方が大きかった。いやそれよりもう當初より契約書を取りかわしての純然たる商取引ということに魅力を感じたからかもしれない。
しかし、何と云つても利益をオーバーする契約金の支払は冒険であった。だが三十万円の赤字はこれをやるより埋める方法はなかつた。
こうして九月二十五日臨時役員会にて举行に決定された。日時は十二月五日亥の時、出します、「聖女ジヤンヌ・ダーグ」であった。

劇場に切符を売つてみると、新劇と云う特殊なジャンルと直段が高いせいもありかはかばかしくなかつた。しかし日

内外の協力に依り別表のような收支の報告を出来たこと深く感謝しなければならない。まだ我々の場合純然たる商取引とは云つても周囲の人々の御援助があつてのことなのだから………

慈善公演に就ての感想 中村 敏一
十二月五日の慈善公演について、何か書くようにと、言われましたが、私などは、人様に話す事は、何一つ協力しておりませんが、私なりに思いのままに述べさせて頂きます。

普通の方がやつてもなかなかむづかしいと言われています様に、まして私が行いますのは、なみなみならぬ物がある事を一人一人が、考えて見たいと、思ひます。

数がたつにつれ、中外製薬を始め婦人の

友社、仏教婦人会、ボランティアの津田

さん、丸山さん等多くの方々の御支援を

受け、当日の都市センターホールは満員

であった。

此度は券販売だけなのでよかつたと、

いつておりますが、その券販売について

有名な聖女ジヤンヌ・ダーグで出演者も

と思つてゐるうちに、牧師が御病氣の為

に入院されたので、御願い出来なくなつたので、青年会の岩野さんと、いつも音楽会は集会がありますし、御願いしていいと
い芝を御後援して下さる信濃町教会の野崎さんと堺江さんに御頼みしたら、なみなみならぬ御協力をして頂きましたし、又山手教会の前を通つたので御頼みすると、伝道師齊野先生が各教会にて御紹介状を書いて下さったので、約十ヶ所の教会を歩きましたら、各教会が当日に集会がありましたので、都合が悪かつたのですが全部が一枚一枚ずつ買って下さつたり、御寄附をして下さったので、心から感謝して居ります。

しかし、御願いに御伺いすると、「都合が悪いから」と申されることはまれにあります。

いろいろと苦難もありましたが、なんと申しても大成功に終りましたのは、応援下さった各会社と御協力下さった方と石橋君始め役員方々の御努力の結晶です。ですが全部が一枚一枚ずつ買つたり、御寄附をして下さったので、心から感謝して居ります。

しかし、御願いに御伺いすると、「都合が悪いから」と申されることはまれにあります。

いろいろと苦難もありましたが、なんと申しても大成功に終りましたのは、応援下さった各会社と御協力下さった方と石橋君始め役員方々の御努力の結晶です。

この御多忙にもかかわらず、券を買って下さつて見に来て下さった方々と出演者の皆様に心から敬意をさせておる一人の会員です。

こぼれ話

◇ 「聖女ジヤンヌ・ダーグ」の舞台は非常に印象的であった。黒の背景が、中世の軍人を、司教を、娘を、そしてその華麗な衣裳を浮きぼりにして素晴しかった。照明も実に巧みで特にジヤンヌが火刑になるシーン等象徴的で俳優の好演と相俟つて中世の世界を再現して美しかった。さすがに福田恒存の演出だと感嘆した。

(F)

この御多忙にもかかわらず、券を買って下さつて見に来て下さった方々と出演者の皆様に心から敬意をさせておる一人の会員です。

